

7. 河川区間の現状

7-1. 河川敷等の利用の現状

(1) 河川敷地の利用状況

尻別川水系は、別名蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山とニセコ山系などの山間を流下するため、平野部は少ないが春の新緑、夏の清冽な流れ、秋の紅葉、冬の銀世界など四季折々の美しい景観をみせ、清冽な流れは釣りや水遊びの場として親しまれている。また、羊蹄山が支笏洞爺国立公園に、ニセコ連峰がニセコ積丹小樽海岸国定公園に夫々指定されとくに尻別川の流域内のどこからでも眺望できる羊蹄山が倒景として清らかな尻別川の水面に映える美しさは、流域住民にとってかけがえのない神聖な「ふるさとの山河」で、この山河との係わりの中で流域の歴史と文化が育まれてきた。

尻別川は溪流釣り、アユ釣りのメッカとして地元はもとより遠く管外からの釣り人が多く訪れ、また、カヌーによる川下りや激流区間でのラフティングなどの水面利用が盛んに行われている。

河川敷地の利用は、下流部では豊国橋^{とよくに}上下流で河川環境整備事業による基盤整備と、蘭越町により尻別川河川公園パークゴルフ場、ランラン公園、山村広場の整備が行われ町民の健康増進と、世代間や他市町村民との交流が活発に行われ多くの人に利用されている。

また、目名川の合流する名駒では魚釣りを体験学習するフィッシュ・アンド・名駒や真冬でも雪の保湿効果を利用して植林を可能にした雪中植林を地元の方々と一緒に実施し官民協働で河畔林の再生を目指す。

中流域における河川空間の利用は、ニセコ町、倶知安町、真狩村の市街地周辺で補助の河川改修工事と町の公園整備により親水施設が整備され、地元出身の流行歌手の記念像が建てられている真狩村河川公園など堤内地の施設と一体として広域的な利用が図られている。

上流部の京極町では「ふきだし公園」と左岸の河川空間の総合的利用を計画し整備を進めている。また、喜茂別町市街地の右岸には利用可能な高水敷があり、河川空間利用の住民要望が多いことから喜茂別河川敷地公園が整備され、水辺の楽校として利用されている。

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	29	8		
	釣り	6	7		
	水遊び	3	1		
	散策等	31	27		
	合計	69	43		
利用場所別	水面	4	2		
	水際	5	7		
	高水敷	56	32		
	堤防	4	3		
	合計	69	43		

出典：河川水辺の国勢調査

(2) 高水敷の利用状況

尻別川の高水敷の占用状況は表7-1に示すとおり約60haの占用面積で、水田や採草地、その他として道路や道路橋等が多く、公園・緑地はランラン公園1ヶ所で約8haの面積を占有している。

割合で見るとそのほか30%と最も多く、次いで26%の水田、22%の採草地の順となり、ランラン公園は14%を占めている。

表 7-1 河川敷地の占有状況

公園緑地		水田		畑		採草地	
件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
1	8.05	53	15.17	30	4.10	12	12.87

建物		その他		合計	
件数	面積	件数	面積	件数	面積
25	0.16	131	17.17	252	57.50

資料：尻別川河川現況台帳図（許可占有物件）



尻別川河畔公園（ランラン公園・山村広場・リーバーサイドパークゴルフ場）

7-2. 河川の利用状況

尻別川は、高水敷の幅が狭く空間利用可能な地区は豊国橋の上下流に限られているものの、自然のうらおいとやすらぎを得られる重要なオープンスペースとして、蘭越町付近の高水敷で河川公園(ランラン公園)が整備され、盛んに利用されている。

河川の利用については、ラフティングや釣りの他、稚魚の放流イベント等に広く利用されており、「尻別川せせらぎまつり」などの河川空間を利用したイベント等もおこなわれている。



図 7-1 河川の利用状況図